

2022年度第2学期校長挨拶（2022. 9. 8）

皆さんおはようございます。元気ですか。

久しぶりの、大講堂での始業式になりました。

中1、中2、中3、中学生諸君は初めてだと思います。高3、高2、高1、高校生諸君は2020年1月の年賀式以来ですから、2年8か月ぶりですね。

やっぱりいいですね。こうして直接皆さんに話ることができるようになったことを、嬉しく思います。

今日は二つの話をします。まずコロナの話をします。

現状です。この夏休みは第7波ということで、感染者数は拡大しました。ちなみに2か月前、7月8日の東京の感染者数は8777人、昨日の感染者数は13568人になりましたが、ピークの7月28日は40395人でした。いかにこの夏休み中に、感染者数が激しく増減したかが分かります。

武蔵もその例外ではありませんでした。学校にも随時連絡が入りましたが、生徒諸君もご家族の皆さんも多くの方が罹患した夏休みでした。ただ、概して言うと、ワクチンの効果もあるのでしょうか、重症化することはほとんどなくなってきたのは幸いだと思います。

武蔵では、この夏休みについては、事前PCR検査を義務づける形で、長い間実施できていなかった宿泊行事も、山上学校、みなかみ民泊実習、総合学習のフィールドワーク、部活動の合宿と実施してきましたが、これは先生方の準備も含めて大変でしたが、「やって良かった」という声をあちらこちらから聞こえてきます。良かったと思います。

コロナの影響については、この夏の高校野球の甲子園大会で優勝した仙台育英の須江監督が、優勝後のインタビューで、名言を残しました。「青春は密」だと。それなのに、制限のある中で取り組んできた全国の高校生諸君を讃えました。

私もテレビで見えていましたが、素晴らしいスピーチで、共感しました。

さて、以前皆さんに放送でお話した時に、1918年から流行したスペイン風邪の話を引き合いに出して、収束までは3年かかるのではという話をしましたが、心の中では、それより早く終わればと願っていましたが、なかなかそうはいきませんでした。でも、そろそ

ろ我々はコロナを終わらせる段階にきていると思います。

今日がそのスタートという意味で、大講堂での集会を再開しました。

具体的には2学期からは、検温のシステムを変えたいと思います。皆さんの自己管理に委ねます。これまでは理科棟で検温し、確認のため身分証チェックをして、登校するシステムにしていました。それを、検温については毎朝の自宅での自己検温に委ね、学校への動線も以前と同じように、身分証のチェックをすることなく、自由な動線とします。理科棟回りでなく、正面から校内に入って結構です。ただし、サーモグラフィは当面の間、引き続き理科棟1階に設置しておきますので、自宅で検温を忘れた場合などは、活用してほしいと思います。また、ピンクの健康観察表は引き続き配布しますので、毎朝の健康チェックに活用してください。

ただし、改めて諸君に留意してもらいたいことが二つあります。

一つは決して無理をしないということ。ご家族も含め、朝の健康チェックをして少し熱がある、具合がわるいときは、決して無理をしないでください。それは我々教員も同じです。突然休講になる場合は、ご容赦ください。

夏休みの感染例を見ると、やはり無理をしていた。迷惑をかけられない、あるいはどうしても行きたい、行かなければならないという例がありました。「大丈夫だろう」と思って登校すると、感染を広げることになります。ここはぐっと我慢してほしいと思います。

もう一つの留意点は飲食です。これも夏休みの感染例を見ると、飲食同席のケースで広がった例があります。食事は静かに摂る。マスクを外して食べているときは、できるだけ同一方向を向き、他人と話さない、話しかけないようにしてほしいと思います。

マスクを外して15分以上、直接会話をすると濃厚接触という基準があります。なるほどなあと思います。改めて、飲食をはじめ、長時間、マスクを外して直接向き合う場面は注意してほしいと思います。

さて、コロナを終わらせる段階に来ていると言いましたが、誤解していけないのは、引き続きコロナ対策は徹底してほしいということです。おそらくコロナはまだ何年か続いていくと思います。完全には終わらない。医療の現場も依然としてひっ迫していることも忘れてはならないし、今後変異ウイルスの動向も踏まえ、第8波のカーブがあがっていくことも十分想定されます。だから引き続き感染防止対策は必要。

具体的には、今言った食事の際の注意、教室内での換気の徹底、手指消毒、飛沫感染対策として、場面に応じたマスクの着用は変わりません。同時に、感染リスクの回避のため、登校後下校時まで、学外への外出については引き続き禁止にします。

二学期は、これから体育祭もあるし、さらには三学期の強歩大会の準備と加速していくと思います。各小委員会の皆さんもこの夏休みに頑張っていると聞いています。昨年先輩たちの取組を踏まえながら、一步でも二歩でも前に進めてほしいと願っています。

以上、コロナについての現状と二学期の対応方針について話しました。コロナを終わらせる段階とお話ししましたが、やるべきことはしっかりやりながら、次の段階に進んでいきましょう。

さて、二つ目の話。コロナの話とともに、久しぶりの対面での機会にもう一つお話ししたいことは、このコロナ禍における世界情勢をみて、改めて考えた、皆さんへの期待です。

大講堂での式典ができなかった3年弱、世の中は色々な動きがありました。まずなんと言ってもコロナという感染症の拡大、それからウクライナへのロシアの軍事侵攻、これは核兵器や原発爆撃の危険性も出てきています。それから気候変動に伴う自然災害の多発。一言で言うと、先行き不透明で、しかもある国で起きたことが世界中に連鎖するグローバルなつながりの時代です。痛感しています。

我々はそうした時代に生きている。世界は難題だらけです。こうした時代だからこそ、その問題を解決に導く、独創性、オリジナリティ、とんがった考えと同時に、柔軟性。多くの人を巻きこみ、受入れることができる力。この独創性と柔軟性を身につけて卒業して行ってほしいと思います。

そのためには、まず、三理想にあるように、何よりも自ら調べ自ら考える。人がそう言っているからと鵜呑みにするのではなく自分の方法で調べ、自分の頭で考え、自分の言葉で語ることがその基盤だと思います。

さらに何が求められるか。この点について、70期の卒業生である馬淵俊介さんという方は、さる4月17日に行われた武蔵学園創立百周年記念式典に寄せたビデオメッセージでそのことについて語っています。皆さんにも紹介したいと思います。

(馬淵さんのビデオメッセージ)

どうでしたか。

世界の難題を解くうえで、東西のスタイルを融合して世界をリードする人間が必要。つまり欧米スタイルを身に付けたうえで、東洋人・日本人の強みを生かすことが重要だということです。まさに、今の時代の「東西文化融合」だと思います。

そのためにも、若くて未成熟だけれど柔軟な感性のあるこの時期に、失敗を恐れずに、様々なことにチャレンジし、色々と巻き込む経験、そして巻き込まれる経験をしてほしいと思います。

馬淵さんがお話しされていた「人生の充実度は、頭の良さではなく、志の大きさと行動力で決まる」。そのとおりだと思います。

さらに、馬淵さんもお話しされていたように、武蔵卒業生の力を借りることも重要だと思います。

今日、これから高校1年生は科目選択説明会で直近の先輩から話を聴きますし、1学期などに実施している様々なキャリアガイダンスもそうした機会ですが、この9月5日に初めて行なった東大研究室訪問で、東大医学科研究科教授の水島昇先生(59期卒)や史料編纂所教授の本郷和人先生(53期卒)のところに伺いました。大いに刺激を受けた諸君も多かったと思います。

さらに直近の予告をすると、この9月10日土曜日の14時30分から、この大講堂で柳沢正史さん(53期卒)によるホームカミングデイの講演会があります。柳沢さんは筑波大学・国際統合睡眠医科学研究機構長として、睡眠の研究をされている、今、武蔵でノーベル賞に一番近いと言われている方です。テーマは「睡眠の謎に挑む」。

もう一つ。これは一週間後ろの9月17日土曜日13時30分から、関谷一郎・東京医科歯科大学教授(57期卒)の講演会がオンラインで開かれます。関谷さんは東京医科歯科大学で、応用再生医学を研究されています。こちらは読売新聞社主催の企画で「未来の医療を創る君へ」という取組のオンライン講演会です。これは物理講義室で受講できるそうです。その他にも注意をしていると、講演会をはじめ、様々な贅沢な機会があります。

チャンスの神様の話を知っていますか。

チャンスの神様は髪の毛が1本しかない。その神様はあるときふっと現れる。そのときふっと髪の毛をとらないと、チャンスの神様はすぐに行ってしまうという話です。

ぜひ、チャンスを生かしてほしい。そのためには、普段から問題意識をもって生活することが大事だと私は思います。

久しぶりの始業式でした。やっぱりいいですね。ぜひ健康には気を付けて素晴らしい2学期にしていきましょう。皆さんご清聴いただき、有り難うございました。